

評価基準及び配点（高度技術提案型）

1 評価方法の設定

入札参加者が有効な技術提案を行うことができるよう、発注者の要求事項を明確にした上で、評価項目や評価基準等を適切に設定するものとする。

(1) 発注者の要求事項

発注者の要求事項として、工事目的物の性能・機能等の要求要件、技術提案をを求める範囲、施工条件等を入札説明書に明示する。

特にⅠ型及びⅡ型については発注者が標準案を提示しないため、発注者の要求事項を詳細に明示することが重要である。具体例を以下に示す。

表1 発注者の要求事項の例

要求事項		Ⅰ型	Ⅱ型
工事内容		【交差点立体化工事】 ・道路アンダーパス ・切り回し道路 ・本線拡幅 ・連結側道 ・道路附属施設	【橋梁工事】 ・下部工 ・上部工 ・仮設工
要求要件	最低限の要求要件	【目的物に関する事項】 ・位置、用地幅 ・道路規格、設計速度 ・幅員 ・道路構造令等基準類の準拠 【施工に関する事項】 ・契約日からアンダーパス供用までの施工日数が最大〇〇日以内 ・施工計画が適正であること	【目的物に関する事項】 ・架設地点 ・道路規格、設計速度 ・幅員 ・道路橋示方書等基準類の準拠 ・〇〇年間の維持管理費が最大〇〇円以内 【施工に関する事項】 ・施工計画が適正であること
	目標状態(最高得点を与える状態)	・契約日からアンダーパス供用までの施工日数の目標値が△△日	・〇〇年間の維持管理費の目標値が▽▽円
技術提案を 求める範囲		・目的物の構造形式 ・構造の成立性の検証方法 ・温度応力や配合等、コンクリートのひびわれ抑制対策 ・施工中の騒音、振動、粉塵の抑制対策 ・現道の交通について、安全性を確保するための対策 ・上記項目の施工計画	・目的物の構造形式 ・デザイン ・構造の成立性の検証方法 ・維持管理を容易とするための提案 ・施工中の溶接部等の品質検査方法 ・上記項目の施工計画
施工条件		・交通規制時間 ・規制時幅員、確保車線 ・施工時間帯	・搬入道路 ・施工時間帯

(2) リスク分担の明示（設計・施工一括発注方式の場合）

契約時点での不確定要因（施工条件、地質条件等）を抽出し、契約時と状況が異なった場合に、発注者及び受注者のどちらの負担とするかを契約図書及び入札説明書に明示する。

2 評価項目

以下の項目を基本として個別に評価項目の設定を行う。

- ① 技術提案（定性的及び定量的な評価項目） 配点 25 点
 - ② 技術提案に係る具体的な施工計画 配点 10 点
 - ③ 企業、配置予定技術者の技術力 配点 5 点
- } 40 点

①については、定量的な評価項目のみでは技術提案の多面的評価が困難となる恐れがあるため、定性的な評価項目を併せて設定することを基本とする。表 3-3 に技術提案に関する評価項目の例を示す。

②により技術提案の根拠、安全性、確実性、品質向上への取組等を評価するものとする。

③により、企業、配置予定技術者の技術力を評価するものとする。

工事毎に工事の内容により評価項目数及び評価基準を設定することができる。なお、得点配分は①25 点②15 点③5 点程度を基本とするが、工事毎に調整できることとする。

表 2 高度技術提案型の技術提案に関する評価項目の例

分類	評価項目		適用	
	定性評価	定量評価	I・II型	III型
総合的なコストの縮減	使用材料等の耐久性	ライフサイクルコスト（維持管理費）、補償費※	○	○
工事目的物の性能・機能の向上	構造の成立生		○	
	品質管理方法		○	○
	景観	機械設備等の処理能力	○	
社会的要請への対応		施工期間（日数）	○	○
	貴重種等の保護・保全対策		○	○
	汚染土壌の処理対策		○	○
	地滑り・法面崩落危険指定地域内の対策		○	○
	周辺住民の生活環境維持対策	施工中の騒音値、振動、粉塵濃度、CO2 排出量	○	○
	現道の交通対策	交通規制期間	○	○
	湧水処理対策	濁水発生期間、pH 値、SS 値	○	○

工事内容に応じて、適宜設定する。複数（分類、評価項目）の設定も可とする。

3 技術評価点

40 点（参考：標準型 30 点、簡易 1 型 20 点、簡易 2 型 15 点）

4 総合評価点

総合評価点は次式により算定する。〔加算方式〕

総合評価点 = 100 × (1 - 入札価格 ÷ 予定価格) + 技術評価点

5 技術提案の改善（技術対話）

・技術提案の内容の一部を改善することで、より優れた技術提案となる場合や一部の不備を改善できる場合には、改善を求め、又は改善を提案する機会を与えることができる。

（公共工事の品質確保の促進に関する法律（平成 17 年 3 月 31 日法律第 18 号）第 17 条）、（公共工事の品質確保の促進に関する施策を総合的に推進するための基本的な方針（平成 26 年 9 月 30 日閣議決定）第 2 第 4 項）

- ・ 最低限の要求要件や施工条件を満たさない事項がありその改善がなされない場合には、発注者は当該入札参加者に対し入札参加資格がないとする旨を通知する。
- ・ 技術対話の範囲は、技術評価項目に関する事項とする。
- ・ 技術対話は、入札参加者間の公平性を確保するよう十分留意する。

6 予定価格の作成と入札・契約

- ・ 技術評価点の最も高い技術提案に基づき予定価格を算定することを基本とし、学識経験者の意見を踏まえて定める。（公共工事の品質確保の促進に関する法律第19条）
- ・ 契約後、受発注者間の協議により、総価契約の内訳として単価を合意する「総価契約単価合意方式[※]」とする。

※「総価契約単価合意方式」とは、
契約変更の円滑化と契約の双務性向上を図るため、総価で契約するものの、単価についても甲乙間で合意しておく方式。

7 改善過程の公表

技術対話における透明性の確保のため、契約締結後に速やかに評価結果とともに、技術提案の改善に係る過程について、概要を公表しなければならない。

（公共工事の品質確保の促進に関する法律第17条）、（公共工事の品質確保の促進に関する施策を総合的に推進するための基本的な方針（平成26年9月30日閣議決定）第2第4項）

評価項目・評価基準の設定例

(1) 交差点立体化工事【I型】

現道の交通量が非常に多い交差点の立体化工事であり、標準工法では工期内の工事実施が困難であるため、設計・施工一括発注方式を適用し、目的物を含めた技術提案を求める。

①技術提案

〔工事毎に評価項目、評価基準及び配点を設定〕

	評価項目	評価基準	配点
① 技術 提案	＜定性評価＞ 構造の成立性	提案目的物の構造及び安定計算、解析手法が適切であり、成立性の判断が可能である。	3.0
		提案目的物の構造及び安定計算、解析手法は妥当であるが、成立性の判断において、明確にすべき追加事項がある。	1.5
		提案目的物の構造及び安定計算、解析手法が不適切である。	0.0
	＜定性評価＞ コンクリートのひび割れ制御に関する品質管理方法	構造形式や施工条件を十分に踏まえた解析に基づいた品質管理方法に、優れた工夫が見られる。	3.0
		構造形式や施工条件を十分に踏まえた品質管理方法である。	1.5
		不適切ではないが、一般的な事項のみの記載となっている。	0.0
	＜定量評価＞ 施工期間（日数）	目標状態を最高得点、最低限の要求要件を0点とし、その間は提案値に応じて案分する。 ・最低限の要求要件：○○日 ・目標状態：△△日	13.0
	＜定性評価＞ 周辺住民の生活環境維持対策	現地条件を踏まえ、周辺住民に与える施工中の騒音、振動、粉塵等の対策を計画しており、優れた工夫が見られる。	3.0
		現地条件を踏まえ、周辺住民に与える施工中の騒音、振動、粉塵等の対策を計画している。	1.5
		不適切ではないが、一般的な事項のみの記載となっている。	0.0
	＜定性評価＞ 現道の交通対策	社会的に与える影響を十分に踏まえた対策を計画しており、優れた工夫が見られる。	3.0
		社会的に与える影響を十分に踏まえた対策を計画している。	1.5
		不適切ではないが、一般的な事項のみの記載となっている。	0.0
	評価点計	(25点満点)	25.0

②技術提案に係る具体的な施工計画

〔工事毎に評価項目、評価基準及び配点を設定〕

	評価項目	評価基準	配点
② 技術 提案 に係る 具体的	現地の条件を踏まえた 施工計画の実現性 ※下記の項目を選択し評価。 (複数選択可) ア 工程計画 イ 品質管理 ウ 安全管理 エ 環境保全 等	現地条件（地形、地質、環境、地域特性、関連工事との調整等）を踏まえた詳細な工程計画であり、コスト削減、品質管理、安全対策等に優れた工夫や品質向上への取り組みが見られる。	2.0
		現地条件を踏まえた詳細な工程計画である。	1.0
		不適切ではないが、一般的な事項のみの記載となっている。	0.0
	現地の条件を踏まえた新技術、新工法等の適用性 ※下記の項目を選択し評価。	施工実績があり技術的に確立した新技術・新工法が採用されており、現地条件を踏まえて安全性や経済性等にも優れたものとなっている。	2.0

な 施 工 計 画	(複数選択可) ア技術的成立性 イ新技術等の実用性 ウ新技術等の実績 エ技術開発の取組姿勢等	施工実績はないが、現地条件を踏まえて安全性や経済性等に優れた新技術・新工法が採用されている。	1.0
		不適切ではないが、一般的な技術・工法等の組合せに留まっている。	0.0
	評価点計	(10点満点)	10.0

③企業、配置予定技術者の技術力 [工事毎に評価項目、評価基準及び配点を設定]

	評価項目	評価基準	配点
企 業 の 施 工 能 力	施工実績 元請として同種工事の施工実績を評価する。○年4月1日以降に完成し申請期限の日までに引渡し完了した工事を対象とする。(注記:期間は前年度から起算して15年間)	同種工事の経験あり	1.0
		実績なし	0.0
	工事成績評定 岩手県営建設工事請負資格審査の主観点の計算式により発注業種の工事成績評定点(対象5年間、○年度から○年度の期間)の平均値 評価の対象工事は、岩手県が発注した○○(※発注業種)工事とする。	85点以上	1.5
		80点以上85点未満	0.7
		75点以上80点未満	0.3
		75点未満	0.0
当該工事の履行に関わる技術開発の実績	特許権、実用新案権の取得あり	0.5	
	NETISへの登録あり	0.3	
	該当なし	0.0	
配 置 予 定 技 術 者 の 要 件	施工経験 同種・類似工事を元請の、主任技術者、監理技術者又は現場代理人として施工した経験により評価する。対象となる工事は、○年4月1日以降に完成し申請期限の日までに引渡し完了した工事とする。 (注記:期間は前年度から起算して15年間)	同種工事の経験あり	1.0
		経験なし	0.0
	技術者の専門技術力、当該工事の理解度及びコミュニケーション能力 (ヒアリングを通じての評価)	当該工事の施工上の問題・課題を適切に把握した上で、課題への対応策が的確であり、技術者として十分理解していることが確認できる	1.0
		上記以外	0.0
	評価点計(5点満点)		5.0

(2) 橋梁工事【Ⅱ型】

現地の条件により想定される有力な構造形式が複数存在する橋梁工事であるため、設計・施工一括発注方式を適用し目的物を含めた技術提案を求める。

①技術提案 [工事毎に評価項目、評価基準及び配点を設定]

	評価項目	評価基準	配点
① 技 術 提 案	<定量評価> ライフサイクルコスト	○○年間に必要となる維持管理費 維持管理費は、各使用材料別の耐用年数に基づき算出する。	15.0
		<定性評価> ライフサイクルコスト低減のための対策	維持管理を容易にするため、目的物の構造や構造物の耐久性向上に関する優位な工夫が見られる。
	維持管理を容易にするため、目的物の構造や構造物の耐久性向上に関する工夫が見られる。		1.5
	維持管理に関して一般的な方策のみの記載となっている。		0.0
	<定性評価> 構造の成立性	提案目的物の構造及び安定計算、解析手法が適切であり、成立性の判断が可能である。	2.0
		提案目的物の構造及び安定計算、解析手法は妥当であるが、成立性の判断において、明確にすべき追加事項がある。	0.0
	<定性評価> 品質検査方法	施工中における溶接部等の品質検査方法について、品質向上のために優位な工夫が見られる。	2.5
施工中における溶接部等の品質検査方法について、品質向上のために工夫が見られる。		1.0	

		施工中における溶接部等の品質検査方法について、一般的な方策のみの記載となっている。	0.0
<定性評価> 景観		周辺環境に調和したデザインになっており、景観に対する優位な工夫が見られる。	2.5
		周辺環境に調和したデザインになっている。	1.0
		不適切ではないが、一般的なデザインになっている。	0.0
	評価点計	(25 点満点)	25.0

②技術提案に係る具体的な施工計画 [工事毎に評価項目、評価基準及び配点を設定]

評価項目		評価基準	配点
② 技術 提案 に係 る 具 体 的 な 施 工 計 画	現地の条件を踏まえた 施工計画の実現性 ※下記の項目を選択し評価。 (複数選択可)	現地条件(地形、地質、環境、地域特性、関連工事との調整等)を踏まえた詳細な工程計画であり、コスト削減、品質管理、安全対策等に優位な工夫や品質向上への取り組みが見られる。	2.0
		現地条件を踏まえた詳細な工程計画である。	1.0
	ア 工程計画 イ 品質管理 リ 安全管理 エ 環境保全 等	不適切ではないが、一般的な事項のみの記載となっている。	0.0
	現地の条件を踏まえた新 技術、新工法等の適用性 ※下記の項目を選択し評価。 (複数選択可)	施工実績があり技術的に確立した新技術・新工法が採用されており、現地条件を踏まえて安全性や経済性等にも優れたものとなっている。	2.0
	施工実績はないが、現地条件を踏まえて安全性や経済性等に優れた新技術・新工法が採用されている。	1.0	
	イ 技術的成立性 リ 新技術等の実用性 リ 新技術等の実績 エ 技術開発の取組姿勢等	不適切ではないが、一般的な技術・工法等の組合せに留まっている。	0.0
	評価点計	(10 点満点)	10.0

③企業、技術者の技術力は、(1) 交差点立体化工事【I型】を参照のこと。

(3) 重力式コンクリートダム本体工事【Ⅲ型】

ダム本体の品質を確保するとともに、施工の合理化を図るため、施工方法について技術提案を求める。

①技術提案

[工事毎に評価項目、評価基準及び配点を設定]

評価項目		評価基準	配点
① 技術 提案	<定性評価> コンクリート(骨材) の品質管理方法	原石山の状況を十分に踏まえて、骨材の採取、製造に際しての品質管理に、優位な工夫が見られる。	4.0
		原石山の状況を十分に踏まえた品質管理方法である。	2.0
		不適切ではないが、一般的な事項のみの記載となっている。	0.0
	<定量評価> 施工期間(日数)	目標状態を最高得点、最低限の要求要件を0点とし、その間は提案値に応じて案分する。 ・最低限の要求要件：○○日 ・目標状態：△△日	17.0
	<定性評価> 濁水処理対策	社会的に与える影響を十分に踏まえた対策を計画しており、優位な工夫が見られる。	2.0
		社会的に与える影響を十分に踏まえた対策を計画している。	1.0
不適切ではないが、一般的な事項のみの記載となっている。		0.0	
	評価点計	(25 点満点)	25.0

②技術提案に係る具体的な施工計画 [工事毎に評価項目、評価基準及び配点を設定]

評価項目		評価基準	配点
② 技術 提案 に係 る 具 体 的 な 施 工 計 画	現地の条件を踏まえた 施工計画の実現性 ※下記の項目を選択し評価。 (複数選択可)	現地条件(地形、地質、環境、地域特性、関連工事との調整等) を踏まえた詳細な工程計画であり、コスト削減、品質管理、安 全対策等に優位な工夫や品質向上への取り組みが見られる。	2.0
	ア 工程計画	現地条件を踏まえた詳細な工程計画である。	1.0
	イ 品質管理 ウ 安全管理 エ 環境保全 等	不適切ではないが、一般的な事項のみの記載となっている。	0.0
② 技術 提案 に係 る 具 体 的 な 施 工 計 画	現地の条件を踏まえた新 技術、新工法等の適用性 ※下記の項目を選択し評価。 (複数選択可)	施工実績があり技術的に確立した新技術・新工法が採用されて おり、現地条件を踏まえて安全性や経済性等にも優れたものと なっている。	2.0
	ア 技術的成立性	施工実績はないが、現地条件を踏まえて安全性や経済性等に優 れた新技術・新工法が採用されている。	1.0
	イ 新技術等の実用性 ウ 新技術等の実績 エ 技術開発の取組姿勢等	不適切ではないが、一般的な技術・工法等の組合せに留まって いる。	0.0
評価点計		(10点満点)	10.0

③企業、技術者の技術力は、(1) 交差点立体化工事【I型】を参照のこと。